

小学校第6学年 外国語活動 学習指導案

期 日 平成25年11月1日(金) 第5校時
 場 所 八代市立八代小学校 6年2組教室
 指導者 教諭 浦田 尚美

1 単元名

「Lesson 4 Turn right. 道案内をしよう」 (Hi, friends! 2 文部科学省)

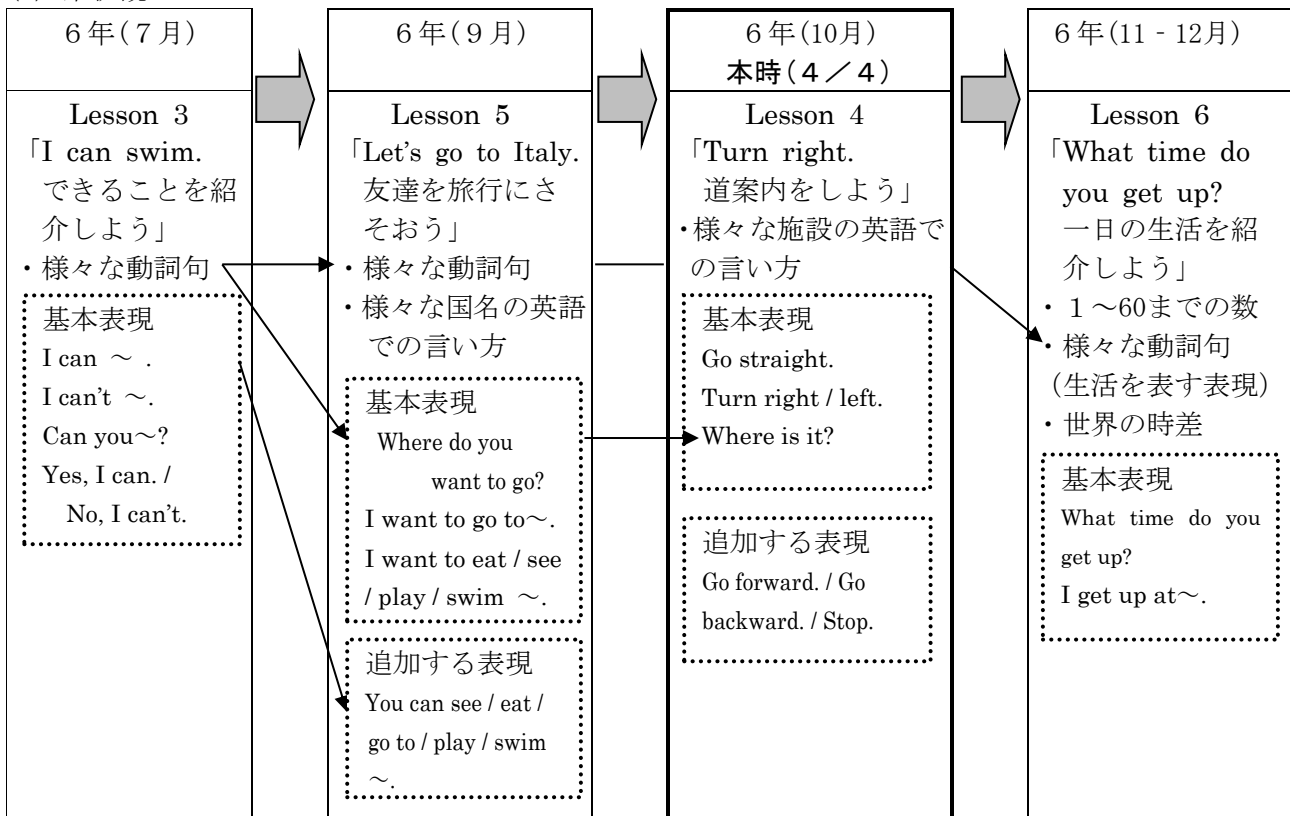
2 単元について

(1) 単元観

本単元は、建物の表し方が英語と日本語とは違うことに興味を持つとともに、目的地への行き方をたずねたり言ったりする表現を知り、積極的に道案内をすることをねらいとしている。外国と日本の建物や街並みについては異なる点も多く、それらに目を向けさせながら言語や文化に関する興味・関心を高めることが期待できる単元である。なお、地域の主要な施設を表す英語表現に慣れ親しむことは、言語を通じた異文化理解につながることはもちろんであるが、今後児童が実際に経験するコミュニケーション場面で役立つ可能性も高い。

また、道案内においては、相手を知っている場合もそうでない場合にも、積極的なコミュニケーションへの態度を発揮することが求められる。特に、目的地への行き方を説明する場合には、相手その内容を十分に理解する必要があるため、相手意識が重要である。「アイコンタクト」「表情」「はっきりとした発話」は言うまでもなく、状況に応じて「確認する」「繰り返す」「発話のスピードに配慮する」「強調する」「訂正する」「ジェスチャーを付ける」など、個々の児童が工夫しながら方略的にコミュニケーションに取り組むことが必要である。学習活動の工夫により、様々な状況に積極的に対処しようとする態度とともに、一律の表現や方法に頼らずにコミュニケーションに取り組む児童の多様な姿はぐくむことができると考えられる。実際の道案内では、具体的に方向を指で指したり、途中まで一緒について行ったり、紙に書いて地図で示したりすることもできるが、本単元を通して培われた意欲や自信がこのような態度の育成にもつながると考える。

(2) 系統観



(3) 児童観

- 本学級の児童数は36人で、素直で学習意欲が高く、学習課題に熱心に取り組み、多くの児童が積極的に発表することができる。
- 各教科の学習で取り組んでいるペアやグループ学習では、それぞれの意見を意欲的に伝え合うことができる。しかしながら、自分の考えや意見になかなか自信が持てない児童も数人見られ、ペアやグループでの教え合いや意見交換の場を多く設定することにより、その改善を図っているところである。
(児童アンケート結果より：一部抜粋 平成25年10月10日(木)実施 35人対象)

質問番号	質問	結果(数字は人数)
①	外国語活動の授業は好きですか。	とても好き(25) 好き(10)
②	外国語活動の授業で積極的に聞いたり話したりしていますか。	とてもしている(12) している(22) あまりしていない(1)
③	自分たちだけで活動を進めることで、自分について何か変化したことはありますか。(内容については自由記述)	ある(23) ない(12) ※「ある」と回答した児童の記述で多かった内容 ・自分から進んで意見を言えるようになった(6) ・積極的になった(6) ・自分で考えて言葉を出せるようになった(3)
④	自分で英語の3ヒントや質問、表現を考えたり伝えたりするのが好きですか。	とても好き(16) 好き(17) あまり好きではない(2)
⑤	自分で考えた英語の3ヒントや質問、表現を、積極的に相手に伝えていきますか。	とてもしている(13) している(19) あまりしていない(3)

- すべての児童が外国語活動を好きであると回答した。
- 35人中34人の児童が外国語活動の授業において積極的に聞いたり話したりしていると回答した。「あまりしていない」という児童についても、ペアやグループでの学習を進め、自信を持って英語を発話する力を付けるための支援が今後必要である。
- 復習や英語への慣れ親しみに関する活動を、ペアやグループを中心に、児童主体で継続的に進めた結果、自分自身について変容があったと考えている児童が23人いる。自分から進んで意見を言えるようになったなど、コミュニケーションへの積極的な態度を育成する上で望ましい変化を感じている。また、人数は多くないが、「自分で考えて言葉が出せるようになった」という意見が見られ、状況に応じて適切な表現を考えようとしている様子が分かる。
- 状況に合った英語表現を自分で考え伝えることについては、ほとんどの児童が積極的に行っていることが分かる。しかしながら、そのことについて肯定的な意識や積極性が見られない児童もおり、コミュニケーションにおける成功体験を積み重ねながら、自信を付けさせる必要がある。

(4) 指導観

- 建物の表し方を通して、カタカナと英語の発音の違いや英語の表す意味に、児童自らが気付くように活動を工夫する。
- 新しい単語や表現は、活動を工夫しながら十分に聞かせ、言わせるようにする。
- 児童自らが思考・判断するような活動を取り入れながら、表現に慣れ親しませていく。
- ペアやグループなど、友達とかかわり合いながらコミュニケーションを図る活動を多く取り入れる。
- 英語やジェスチャーなどを使いながら、自分の言いたいことをどうにかして伝える活動を積み重ねる。
- 相手に伝わるような道案内とするため、相手意識を重視した活動とする。
- 活動を通して、伝え合う喜びを味わうことができるようにする。
- 地域の実際の道を使って道案内をする活動を取り入れることで、児童のコミュニケーションへの関心を高める。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
<p>【視点1】 児童の発想の豊かさや多様性を引き出す発信型の慣れ親しみの活動を継続的に行う。また、目的達成までの過程において、多様なアプローチが考えられる課題を設定し、児童の思考力・判断力・表現力等を育成する授業を目指す。具体的には、道案内において、「繰り返す」「強調する」「修正する」「確認する」「話すスピードに配慮する」など、相手意識に基づき、個々の児童が表現を選択したり創造したりする活動を実現させる。また、慣れ親しみの活動においては、ペアやグループでの活動を基本とし、教師ではなく児童自らが進行できるようにする。</p>	<p>【視点2】 学習課題を、「自分たちの町を作り、相手が行きたい場所への行き方を、分かりやすく説明してあげよう」とする。相手の状況に応じ、限られた語彙や方法で、どのように分かりやすく伝える工夫を行ったかを意識できる振り返りカードを作成する。また、自分と友達のパフォーマンスや意識を比較したり改善点に気付かせたりするとともに、それらの変容を見取り、指導や学習課題を改善する材料とする。</p>	<p>【視点3】 本単元は道案内を主な学習活動とし、「言語や文化に関する気付き」にかかわる項目として、様々な施設の英語と日本語とでの言い方の違いを取り扱う。校区内の施設に関する情報を状況に応じて活用させるとともに、学校から警察署などの各施設までの道を実際に撮影した動画や地図検索サイトを使いながら、学習活動を工夫する。そのことによって、児童自身が、必要な情報を活用しながらコミュニケーション活動に取り組むことができるようにする。</p>

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付くとともに、目的地への行き方をたずねたり言ったりする表現に慣れ親しみ、積極的に道案内をしようとする。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	目的地への行き方を積極的にたずねたり、相手意識を持って説明したりしようとしている。
外国語への慣れ親しみ	①建物を表す英語を聞いたり言ったりしている。 ②目的地への行き方をたずねたり言ったりしている。
言語や文化に関する気付き	英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付いている。

4 指導・評価の計画(4時間取扱い 本時4/4)

次時	学習活動	指導上の留意点 【三つの視点から】	評価の観点(評価方法) B基準
1	○様々な建物の英語での言い方を知り、慣れ親しむ。	<p>・既に親しんだ色や形、数などを使ったクイズを通して英語での建物の言い方に興味を持たせ、慣れ親しませる。</p> <p>【視点1】既に親しんだ語を活用し、児童に推測させる場面を設定したり、児童自身にヒント(言語・非言語による)を考えさせたりしながら発想を広げさ</p>	<p>外国語への慣れ親しみ① (行動観察・振り返りカード点検) 建物を表す英語を聞いたり言ったりしている。</p> <p>言語や文化に関する気付き (行動観察・振り返りカード分析) 英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付いている。</p>

			せる。また、できるだけ児童が活動の進行をする場面を設け、英語を使った主体的なコミュニケーションを行わせる。	
2	1	○目的地への行き方をたずねたり言ったりする表現を知り、慣れ親しむ。 ○道案内のコミュニケーション活動を行う。	・基本表現に慣れ親しむことができるように、いろいろな活動の中でその表現を使うようにさせる。 【視点1】「Go forward. / Go backward. / Stop.」など、テキストには出ていなくても活動の幅が広がる表現を追加し、目的地への行き方を個々の児童が工夫しながら(繰り返し、確認、強調、話すスピードへの配慮、適切な表現の選択、訂正など)相手意識を持って説明できるようにさせる。	外国語への慣れ親しみ② (行動観察・振り返りカード点検) 目的地への行き方をたずねたり言ったりしている。 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (行動観察・振り返りカード点検) 目的地への行き方を積極的にたずねたり言ったりしている。
3	1	○校区内の施設を使って、道案内のコミュニケーション活動を行う。	・自分の住む校区内の施設へ向かう映像や地図検索サイトを用いて、それぞれの施設への行き方を説明させる。 【視点3】道案内をする際に、地域の情報を活用したりお互いに共有したりさせる。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (行動観察・振り返りカード分析) 相手意識を持って、積極的に目的地への行き方を尋ねたり言ったりしている。
4	1	○自分の持ちたい店を決め英語を使ってグループで町を作る。 ○グループで作った町を使いながら、他のグループの友達と行きたい場所を案内し合う。 【学習課題】 自分たちの町を作り、相手が行きたい場所への行き方を分かりやすく説明してあげよう。	・基本表現を使いながら自分たちの町を作り、他のグループと一緒に目的地への行き方をたずねたり説明したりさせる。 【視点1】第2, 3次と同様、相手意識を持った説明を個々の児童がそれぞれに工夫しながら行うことができるようにする。 【視点2】相手に分かりやすい伝え方をするという目的を持たせ、振り返りカードに具体的な項目を示す。自分と友達を比較しながら活動を振り返らせ、次の活動の改善点として意識させるようにする。	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 (行動観察・振り返りカード分析) ・グループにおいて、英語を使いながら積極的に町づくりをしている。 ・他のグループの友達の目的地を積極的に聞いたり、様々な工夫をしながら分かりやすく伝えたりしようとしている。

5 本時の学習

(1) 目標

相手の様子を見ながら、分かりやすく伝える工夫をして道案内をする。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 15分	1 あいさつをする。 2 ウォームアップ (1) 迷路 (2) 宝探しゲーム (3) 実際の映像を使った道案内 3 本時の目標を確認する。	○Good afternoon, everyone. How are you? ○ペアで迷路のゴールを目指しましょう。 ○友達を宝の場所まで案内しましょう。 ○学校から□□まで、道案内をしましょう。	○外国語活動の雰囲気づくりをする。 ○活動を変えながら、基本表現に親しませるようにする。 ○相手に伝わるように、考えて道案内ができるようにする。 ○道案内の表現が伝わらない場合は支援する。 ○実際の道の映像を使うことで、より実際の道案内に近いようにする。	迷路 宝 実際の道の映像
相手の様子を見ながら、分かりやすく伝わるように道案内をしよう。				
展開 25分	4 自分たちの町を完成させる。 ・グループの友達に、自分の店までの道案内をする。 ・道案内のあと、店のカードを地図に貼り、自分たちの町を作っていく。 5 自分たちの町の道案内をする。 ・8グループをA・Bチームに分け、AチームからBチームのところへ聞きに行き道案内をしてもらう。 ・A・Bチームの役割を交替する。	○それぞれ自分の店まで案内して、自分たちのグループの町を完成させましょう。 S1: Where is ~ ? S2: Go straight. Turn right / left. ○自分たちの町を案内します。 ○最初にBチームのグループが自分たちの町を案内します。 ○Aチームのグループは、それぞれ案内してもらいたい店についてたずねます。 ○相手に分かりやすく伝えるために工夫しながら道案内をしましょう。 B: Where do you want to go? A: I want to go to~. Where is ~?	【視点1】第2, 3次と同様、相手意識を持った説明を個々の児童がそれぞれに工夫しながら行うことができるようにする。 評価: コミュニケーションへの関心・意欲・態度(行動観察・振り返りカード分析) B基準・グループにおいて、英語を使いながら積極的に町づくりをしている。 ・他のグループの友達の目的地を積極的に聞いたり、様々な工夫をしながら分かりやすく伝えたりしようとしている。 <B基準に達していない児童への手だて> 個別に声かけをしたり、グループで協力させたりする。 【視点2】相手に分かりやすい伝え方をするという目的を持たせ、振り返りカードに具体的な項目を示す。自分と友達を比較しながら活動を振り返らせ、次の活動の改善点として意識させるようにする。	マップ(小) マップ(大) 店の絵 店の絵の表
整理 5分	6 活動を振り返り、カードに記入する。 7 あいさつをする。	○今日の活動を振り返りカードに書きましょう。 ○That's all for today. See you next time.	○自分自身を振り返らせ、次の学習への意欲を高めるとともに、互いのよさに気付かせ、認め合うことを大切にする。	振り返りカード

【言語活動】
互いに道案内をすることで、自分の町を完成させたり、友達の町を知ったりする。